

日本ロータリー学友会*からロータリーへの提言（2024年11月9日総会）

日本ロータリー学友会全国総会が東京海洋大学で開催され、全国各地から学友・ロータリアン76名が参加した。ロータリー財団の「国際親善奨学金制度」により、日本では1951年から2013年までに、8,299名が様々な分野で奨学金を受けてきたが、グローバル補助金では7つの重点分野に限定されている。総会のパネル・ディスカッションでは活発な議論の後、この「提言」をまとめて会場の承認を得た。（*日本では「日本ロータリー学友会」、RIへはJapan Rotary Alumni Associationの名称で正式に登録承認されている学友会で、日本各地区の学友会の連合体。）

提言

日本や世界の未来を担う意欲ある日本の若者に、グローバル補助金の7つの重点分野に限らず、地区補助金を利用して、他のあらゆる分野を学ぶための奨学金を与えて欲しい！

1 提言へ至る経緯

2013年からR財団の補助金制度が大幅に変わり、それまで多くの日本人の若者が海外で学ぶ機会が提供されていた「国際親善奨学金」制度がなくなり、「グローバル補助金」と「地区補助金」の2種類になった。新しい奨学金制度の変更に伴い、アンケートの実施や分析、様々な情報収集により、日本や世界の将来を担い活躍する日本の若者、人材を育てる支援、奨学金について、3点の懸念される問題点が明らかになった。

(1) ロータリー奨学金による日本人の留学生の減少

制度変更から10年が経過し、結果として、2023年から24年度にかけて、この2つの奨学金制度で留学した日本人は62名であり、米山奨学生として海外から日本への留学生は900名である。日本人奨学生は米山奨学生の6.9%である。

また、奨学金制度変更前の1951年から2012年の国際親善奨学生数の年間平均留学生数は、131名、制度変更後の2013年から2023年のグローバル補助金奨学生数の年間平均は、38名、地区補助金奨学生数は、18名で、日本人留学生の数は半分以下の42%と大幅に減少した。

(2) 留学の機会と奨学金額の格差

日本全国34地区内で、「地区補助金」による奨学生を出したのは16地区だけである。また地区補助金奨学金の額も100万円～30,000USD/人で、地区により格差があり、1年の留学期間の学費や生活費には不十分である。それに対して、グローバル補助金は、30,000～40,000USD / 人で、恵まれた支援が得られる。この2つの奨学金額にも大きな格差がある。

(3) 研究分野の制限、偏り

国際親善奨学金の制度では、すべての分野を研究する選択肢があり、故・緒方貞子さん(国連難民高等弁務官)、中満泉さん(国連事務次長、軍縮担当上級代表)のように平和構築、紛争解決のための分野、山崎直子さん(宇宙飛行士)や真鍋 真さん(国立科学博物館副館長)のような自然科学系、地球科学、生物学などの分野、上岡敏之さん(コペンハーゲン・フィル、首席指揮者、ピアニスト)の芸術の分野について学ぶことができた。しかし、グローバル補助金は、研究分野が7つの重点分野に限定されており、それ以外の研究分野は、認められていない。

2 以上のような現状について、様々な意見や改善するためのアイデアが出されている

- (1) 日本から海外で学ぶ留学生に、その地で充実した学びができる環境を提供できる奨学資金を何らかの方法で、準備できないか

現在、7つの重点分野以外で留学を考える場合、「地区補助金」を使うことが可能である。しかし、地区補助金で奨学金を出している地区は半数未満であり、奨学金として使えることを知らない地区もある。留学資金としては、金額も十分ではないので、何らかの方法、配慮があれば望ましい。

四国の学友が、個人で、毎年一人の留学生に300万円の奨学金を授与している。ドイツのある地区では7つの重点分野以外の留学生のために寄付を募り、地区独自の奨学金を出している。

- (2) 留学生が学ぶことを希望する専門分野についての広がりが必要ではないか

グローバル補助金の7つの重点分野については、ロータリーが平和構築に力を入れているので理解できる。しかし、平和フェロー奨学生という平和構築に特化しているところもあるので、もっと学びの分野に広がりを持たせても良いのではないか。

学問はすぐに役立つものばかりでなく、長い目で見て人類に貢献する分野も数多くある。近年ではAIなど新しい分野も出てきており、音楽などの芸術は、多くの人々に影響を与える分野であり、そうした分野の人材を育てることも大切である。

- (3) ロータリーの奨学生だからこそその素晴らしさを体験し、日本、世界で活躍する人材を育成できるように、以前のように多くの奨学生を送り出せるようにしたい

学友たちは、留学経験で得たものについて、かけがえのない友人、人との出会い、ロータリアンたちとの交流、「コミュニケーション能力」、「チャレンジ精神」、キャリアコーチング、国際関係・理解などをあげている。こうしたものは、日本や世界の未来を担う人材育成には、貴重な要件である。こうした人材を是非、ロータリーの奨学金で育てたい。

3 日本ロータリー学友会からの提言

以上のような経緯から、日本ロータリー学友会では、次のような提言を採択した。

日本や世界の未来を担う意欲ある日本の若者に、グローバル補助金の7つの重点分野に限らず、地区補助金を利用して、他のあらゆる分野を学ぶための奨学金を与えて欲しい！

- ①「人材育成」(意欲ある若者の育成)を通して社会に奉仕したい。
- ②グローバル補助金(7つの重点分野)だけでなく、他のあらゆる分野を学ぶ意欲ある若者への奨学金が必要。
- ③今できることは各地区が「地区補助金」を使って、7つの重点分野以外の奨学生を1人でも多く送り出して欲しい。

国内外で活躍する R 財団国際親善奨学生プログラム（1951 年～2013 年）

日本のロータリーは、全ての分野から分け隔てなく、総計 8,299 名(1951 年～2013 年)の「国際親善奨学生」を各国に派遣した。その結果、国内外で活躍する多くの優れた学友を輩出した。



故 緒方貞子氏
日本人初元国連
難民高等弁務官
(出典:UNHCR)



中満 泉氏
国連事務次長
軍縮担当上級代表
(出典:国連広報センター)



山崎直子氏
日本人二人目
宇宙飛行士
(出典:JAXA)



上岡敏之氏
コペンハーゲン・フィル
主席指揮者
(出典:日本コロムビア)



真鍋 真氏
国立科学博物館
副館長
(出典:絵本ナビ)



高橋裕子氏
津田塾大学学長
(出典:高橋裕子オフィシャルサイト)



中曽根牧子氏
RID5280 ガバナー
(米国カリフォルニア州)
(出典:ロータリーボイス)



秋山信将氏
一橋大学
国際公共政策大学院長
(出典:日本記者クラブ)

国際ロータリー・ロータリー財団「地区補助金による海外留学支援アンケート調査分析」

日本ロータリー学友会では、RI 日本事務局と RI 財団地域コーディネーターのご協力のもと、全国 34 地区を対象にして 2024 年 1 月から同年 3 月にかけて、「地区補助金による海外留学支援アンケート調査」をおこなった。その結果を以下に示す。

1)「地区補助金」による海外留学生支援地区数 (2013-14 年度～2023-24 年度)

- ・全国 34 地区のうち 16 地区が支援した
- ・17 地区は支援していない
- ・1 地区は未回答

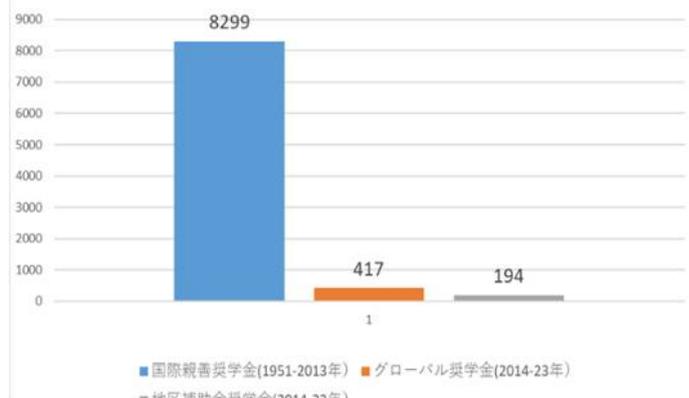
「地区補助金」による海外留学支援 地区数



2)奨学金別 累計海外留学生数 (1950-51 年度～2023-24 年度現在)

- ・国際親善奨学金(63 年間) 8,299 名
- ・グローバル奨学生(11 年間) 421 名
- ・地区補助金奨学生(11 年間) 194 名

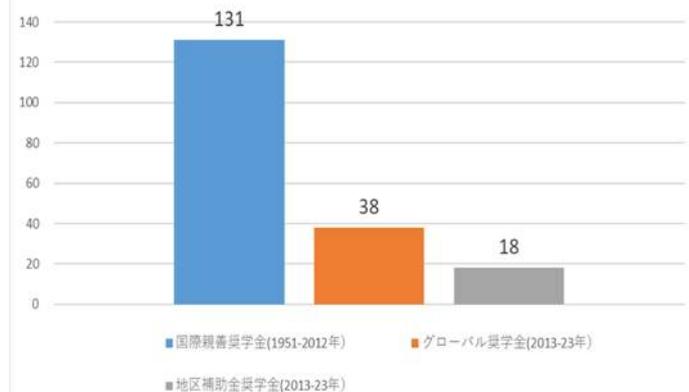
奨学金別 累計海外留学生数



3)奨学金別 年間平均海外留学生数

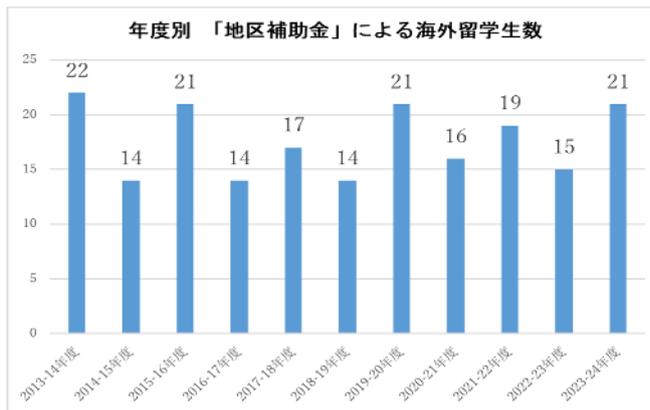
- ・国際親善奨学金 131 名
(1950-51 年度～2012-13 年度)
- ・グローバル奨学生 38 名
(2013-14 年度～2023-24 年度)
- ・地区補助金奨学生 18 名
(2013-14 年度～2023-24 年度)

奨学金別 年間平均海外留学生数

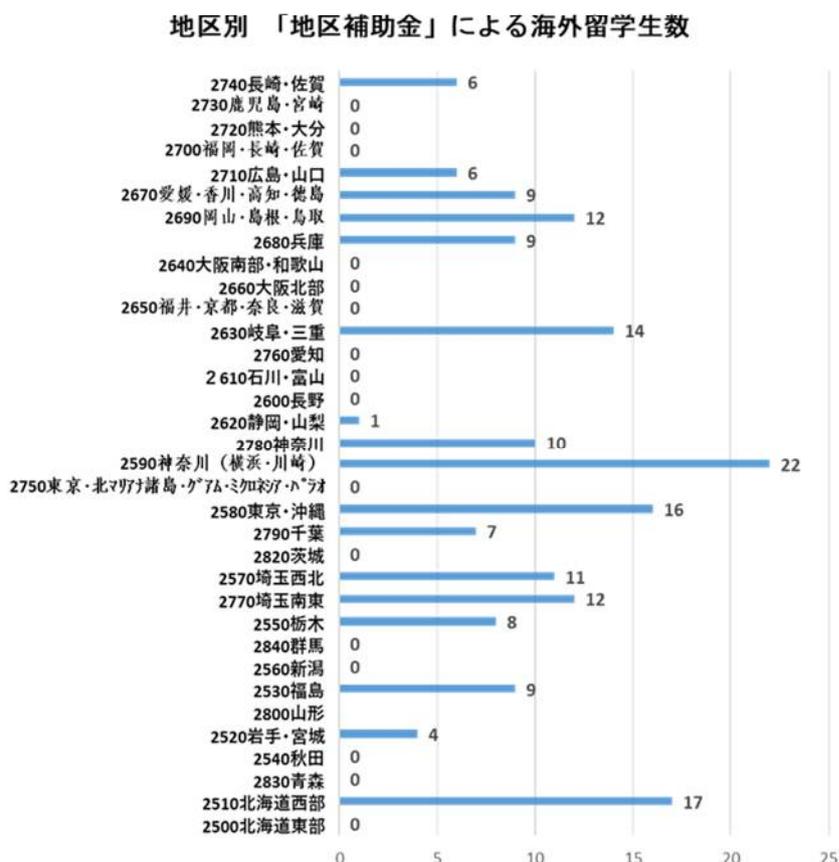


- ・2013～14 年度の奨学金制度変更により日本からの年間海外留学生数は 42% に減少した

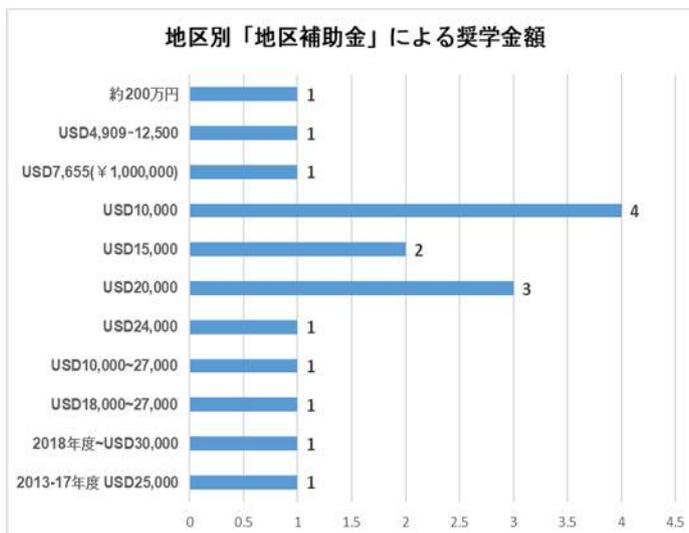
- 4) 年度別「地区補助金」による海外留学生数
 ・年平均で14~22名を推移している



- 5) 地区別「地区補助金」による海外留学生数(2024年5月現在)
 ・地区によりバラツキが顕著

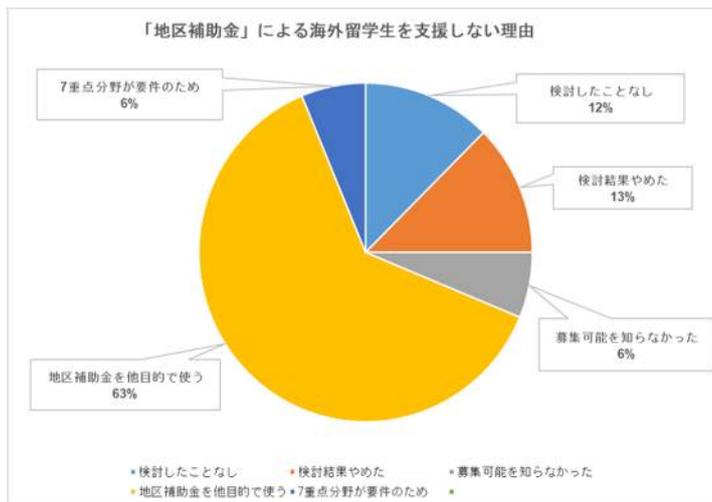


- 6) 地区別「地区補助金」による奨学金額
 ・地区によりバラツキが顕著
 ・100万円~USD30,000
 ・「グローバル奨学金額」に比べて奨学金額の格差があきらか



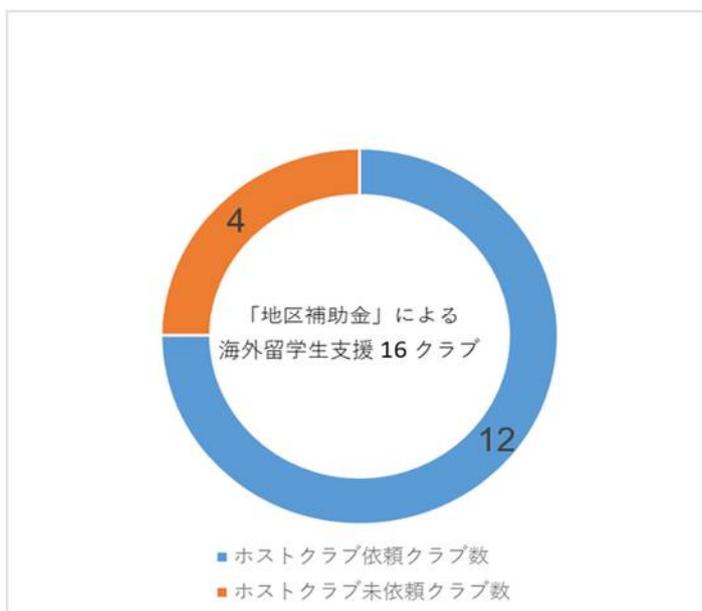
7)「地区補助金」による海外留学生を支援しない理由

- ・支援しない地区の63%は「地区補助金を他目的で使う」と回答
- ・「地区補助金」で募集可能を知らなかった、7つの重点分野が要件と考えた、など理解不足もある



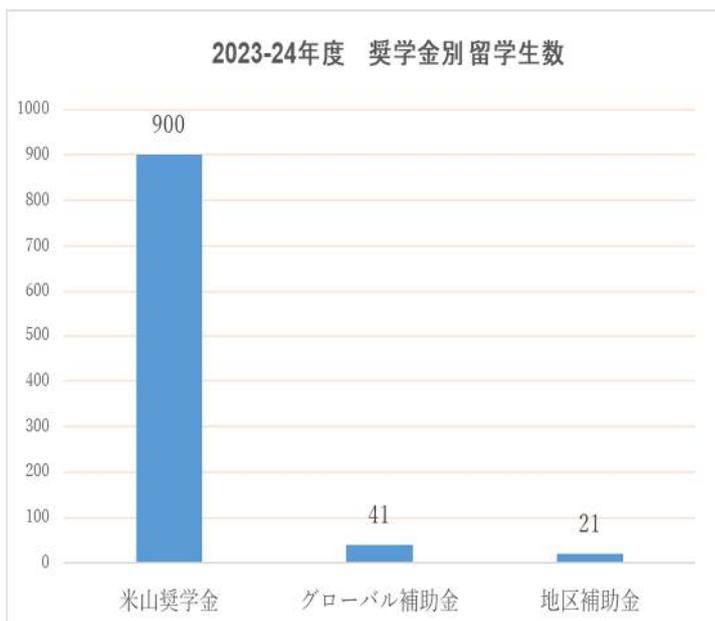
8)「地区補助金」による海外留学生にホストクラブを依頼したクラブ

- ・「地区補助金」による海外留学生を支援した16クラブのうち12クラブがホストクラブを依頼



9)ロータリーによる奨学金別留学生数(2023-24年度)

- ・R財団日本人留学生「出」と米山留学生「入」の格差が顕著
- ・日本人留学生62名は米山留学生900名の6.8%

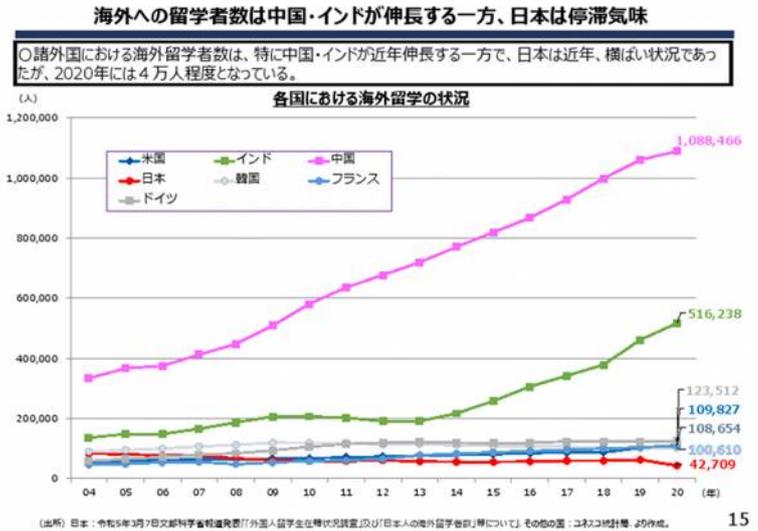


日本人海外留学生の動向（図表は全て 2023 年度内閣官房資料から抜粋）

日本政府は日本人海外留学生の減少が及ぼす国力の衰退を危惧して、日本人留学生の動向を各国留学生と比較分析するなどした調査報告書を公開している。

1) 各国における海外留学の状況

- ・中国、インドが伸長
- ・日本は近年下降傾向

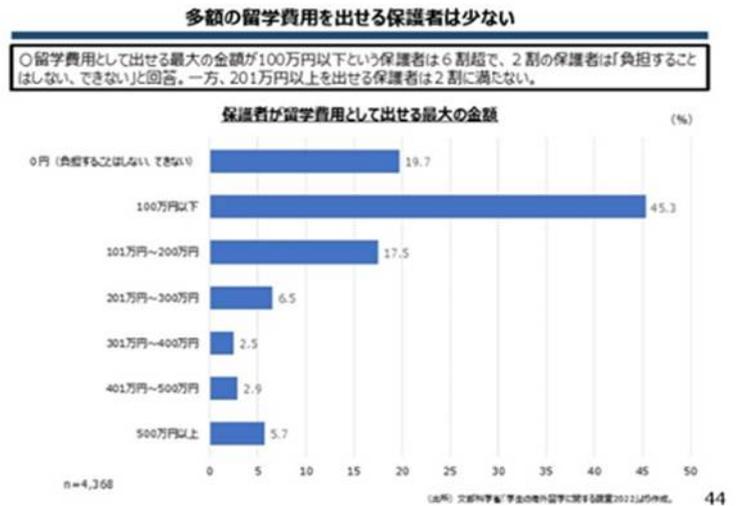


2) 海外留学しない理由

- ・経済的な余裕がない
- ・治安に不安がある 他

留学総費用

- ・1年以上の留学経験者の総費用は200万円以上が約4割
- ・保護者が留学費用を負担できる最大の金額は100万円以下が6割超。
- ・201万円以上だせる保護者は2割以下
- ・ロータリー財団奨学金プログラムの大切な役割を示唆している



3) 企業が求めるグローバル人材の素質

- ・知識以上に「海外との差異に興味・関心を持ち、柔軟に対応する姿勢」
- ・「既成概念にとらわれず、チャレンジ精神を持ち続ける」といった素質

